



# 町政報告

## ( 主な内容 )

### 9月定例町議会

九月定例町議会が、九月十四日から二十二日の九日間の日程で開催されました。初日、町長は町が抱える課題や現状について報告。十四日には五人の議員が登壇し一般質問を行いました。(詳しくは十月十五日発行の議会だよりでお知らせします)

今議会では、十八議案が審議され、十一年度各会計決算の七議案が決算特別委員会に付託。十二年度一般会計補正予算、町教育委員の任命など十一議案が原案どおり可決されました。

なお、町長の町政報告の概要は次のとおりです。

#### 水稲の作柄

東北農政局秋田統計情報事務所が発表した九月一日現在の作柄概況によると、県北地方は作況指数一〇三の「やや良」となっています。昨年のカメムシ被害を踏まえ水田周辺の草刈りを徹底するなど指導を行ってききましたが、今後は収穫の遅れによる胴割米が生じないよう適期に作業を進め、良質米の生産に努めてください。



例年より約10日早く始まった刈取作業(悪戸)

県営大区画ほ場整備事業本年度工事は悪戸、富根、種市川堰富田の四地区で順調に進み十一月の竣工を目指しています。十一年度の繰越分も含め実質十二億六百万円の事業費が投じられていますが、国の公共事業予備費が

ら二地区に対して七千五百万円追加されることとなり、この結果、十年度に着工した悪戸地区は本年度で実質工事を終了できる見込みです。

#### 稲の試験栽培

環境に配慮した農業の可能性を調べるため、荷上場・奥岱地区で農家の協力をいただき、無農薬・減農薬、慣行農法の三タイプの稲の試験栽培を進めてきました。除草剤を使わない代わりに米ヌカを使用、虫対策として畦にハーブを植えるなど、環境にやさしい技術を試行していますが、心配されたイモチの影響もあまりなく、田んぼにドジョウや昆虫類がよみがえるなど予期した以上の成果が得られました。今後、収量や食味、技術の普及性などを調査し、来年度以降の対応を探っていきます。

#### 後期基本計画策定

町総合発展計画・後期基本計画の策定ですが、過疎地域自立促進

計画との調整に時間を要し、予定したスケジュールがずれ込んでいます。資源循環型社会、持続可能な発展を追求する時代の潮流をにらみ、「みどりのフロンティア」を旗印として町の進むべき道筋をとりまとめていきますが、個々の事業計画との整合、財政状況の検討など、細部の調整を行っている段階です。

#### 過疎地域自立促進計画

過疎地域の振興をめざす過疎法は、十一年度で期限切れとなりましたが、過疎債による財政優遇措置の必要性は高く、全国の市町村が新たな立法措置を要請してきましたが、本年度から十年間の時限立法として過疎地域自立促進特別措置法が制定・公布されました。これに伴い、新たに「過疎地域自立促進計画」を策定することになりました。過疎法は過去二回、三十年にわたって議員立法で制定され、これが第四次ですが、二ツ井町は十年前、平成二年度の第三次計画から過疎指定を受け、特別養護老人ホーム、若者定住促進分譲団地、公民館二ツ井分館、杉本一ルひびき、総合福祉センターなどの施設整備、梅内悪戸線、仁鮎天神線、麻生下田平線、馬子岱根小屋沢線などの町道、農道、林道網整備を実施しました。新計画では産業の振興を最重要課題として現



七回目を迎えるコンテストは、これまで通り九月一日から募集を開始しています。検討を重ねた結果、二十世紀最後の年であることも意識し「出せなかつた想い」をテーマとしました。恋文コンテストは町にとって大きな情報発信源となり、コンテスト自体にとどまらず、国・県の事業採択にあっても大きな影響力を発揮しています。テレビの放送もきっかけとなり、「日本一心のこもった恋文」第一巻を文庫本にする話が具体化し、集英社から申し出があったので、これを受け入れることにしました。刊行予定は十一月二十日、初版二万部を予定しているとのことです。また、十、十一月にかけては

CS放送スカイパーフェクTVで恋文作品の朗読番組が計画され、再放送を含めて四十回の放送が予定されています。今回も多くの応募を期待しています。

#### 日本一の杉「きみまち杉」

林野庁が選定した「森の巨人たち百選」に選ばれた「きみまち杉」の保護・利活用対策を進めるため六月二十八日「きみまち杉保全協議会」が設立されました。森林管理署の指導・協力を得ながら、協議会で整備内容を検討し、国レベルの事業実施団体である「国土緑化推進機構」に対し、助成申請をしました。大手旅行代理店により巨木を訪ねる旅が計画され、きみまち杉への訪問を含め、秋田・山形両県の各地を訪ねることになっています。巨樹・巨木そのものはもちろん、それを生み出した豊かな自然の観察、広く自然環境学習への関心が高まっていることが町が進めている「みどりのフロンティア」の考え方も合致することですので、可能な限り協力しながらその定着を期待します。

#### きみまち阪「みゆき橋」改修

工事は順調に進み橋桁の架設も終了。予定どおり九月中旬に完成すると報告を受けています。十月十日から紅葉まつりが始まりますので、多くの方々からご覧いただけ

るものと思います。



順調に進められた改修工事

#### ふっちゃん庭づくり隊

総合福祉センターに隣接するふれあい公園を整備するため「ふっちゃん庭づくり隊」へのボランティア参加を呼びかけたところ、十二人、一団体の応募をいただき、各地区松寿会からの協力も得ながら花壇づくり、通路づくり、芝敷きなどの作業に汗を流しました。作業に携わった方々は延べ百人以上にものほりました。ご協力を深く感謝し、今後とも気軽に庭木などを持ち寄り、皆さんが集い憩える庭づくりに参加いただければと考えています。

#### 介護保険制度

五カ月が経過し、これまでのところ苦情もなく、安定した介護サービスが実施されていると考えています。当初、認定者四百十二名でスタートしましたが、その後、毎月十五人ほど増加。八月末で四百八十七名に達しました。利用状況は、六月の月間実績でみた場合在宅二百三十六名、施設百二十八

名となり、これに伴う保険給付額は約五千万円でした。六十五歳を超える第一号被保険者の介護保険料は、国の方針により今月まで免除されていましたが、十月から保険料の半額を納めていただくことになりました。

#### 児童手当制度拡充

国の「新エンゼルプラン」の一環として、児童手当制度を拡充する法律が施行されました。三歳未満の児童が対象でしたが、新たに義務教育就学前まで対象を拡大することになりました。これにより、町内では三千九百三十人が対象となり、総額約二千三百万円が支給されます。九月末までに手続きすると、六月にさかのぼって支給されることになっていますので、対象の方々には支給漏れのないよう個別に通知し、認定を受けるようお願いします。

#### 自転車のまちづくり

自転車のまちづくり計画の中に、自転車にも人にもやさしい道路環境の整備が重要であるとの考えが盛り込まれ、建設省のモデル事業により国の財政支援が受けられることから、当初予算に事業費を計上していました。本年度は二ツ井駅前、町道二ツ井停車場線など二路線を予定し、住民説明会を開催し趣旨、手法などを説明してきま

に実行しようとするもの、計画期間内に具体化してくると予想されるもの、今後話題になってくるであろうものを想定し、その中からできるだけ多く過疎対策事業として財政措置が取られるよう事業計画を網羅しています。

#### 恋文全国コンテスト

七回目を迎えるコンテストは、これまで通り九月一日から募集を開始しています。検討を重ねた結果、二十世紀最後の年であることも意識し「出せなかつた想い」をテーマとしました。恋文コンテストは町にとって大きな情報発信源となり、コンテスト自体にとどまらず、国・県の事業採択にあっても大きな影響力を発揮しています。テレビの放送もきっかけとなり、「日本一心のこもった恋文」第一巻を文庫本にする話が具体化し、集英社から申し出があったので、これを受け入れることにしました。刊行予定は十一月二十日、初版二万部を予定しているとのことです。また、十、十一月にかけては



議論を熱心と住民説明会に参加者との熱心な説明

したが、整備のあり方などについて様々な意見、質問、疑問、批判が提起され、一部の方々からは厳しく難色が見られました。すでにある道路に自転車・歩行者用道路を整備するのは、車に占用されていた道路空間を歩行者や自転車と分かち合っていくことであり、これまでにはない、新しい考え方が必要です。それだけに、道路に面する方々には生活環境が大きく変わることにもなり、その考え方を理解していただくことに重点を置かなければならないと、重ねて指示しましたが、結果として、徹底を欠いた面があることは否定できず、今後の大きな教訓にしていかなければなりません。担当者には厳しく注意、徹底し、改めて説明会を開催、それまでの経過について釈

い、多様な指摘を整理しながら、改めて各地の事例を調べ、県と折衝しながらどのような内容であれば受け入れが可能か、作業を積み重ねていきましたが、その過程でさらに、計画の白紙撤回を含む要望が出ました。このような場合は原点到立ち返ることが肝要だと思いい、二ツ井停車場線は計画を撤回し、改めて出直しをしようということにしました。町道太田面上野線は地域の方々の理解が得られたので縁石の要望などを取り入れ、事業の推進を図ることにしました。工事期間は四カ月程度の見込みです。年度内の着工ができるように県と調整を行っていきます。

合併処理浄化槽整備事業

昨年度末までに五百六十三基を設置、今年度も百二十基を目標としており、普及率は二〇%を超える見込みです。また、厚生省浄化槽対策室から担当官一人が県の担当者と来町し、町の実態について理解を深めるとともに、事業推進上の課題などについて意見を交わしました。町からは、浄化槽の一層の普及には排水路の整備が不可欠であり、ぜひ、国において財政措置を講じていただきたい。用地確保に難のある世帯が何軒か共同して浄化槽を設置する道を開いていただきたい。などいくつかを要望しました。厚生省の担当官は

「全国的に浄化槽への関心が急速に高まっている。二ツ井がそのモデルとなっているので、今後ともがんばってほしい。国としても、できる限り応援していきたい」と期待感を述べ、要望のうちいくつかは、直ちに取組むとの考えを表明されました。今後とも国・県と連携を密にし、より有効な推進体制をつくっていきます。

林業地域総合整備事業

馬子代集落内の道路改良工事は年度内に舗装を含めて完成する予定で進めています。林道駒形又石線は八月三十一日に発注済み、種荷上場線については準備が出来次第発注の予定で、いずれも平成十五年年度完成を目指します。

分収造林受託事業

緑資源公園から今年度の事業費配分があり、舟打沢造林地の保育間伐事業十三ヘクタールを実施します。

特産品展示・販売

各種の振興策に対応し、二ツ井駅前に自力で町の顔といえるような建物を造り、町の特産物を展示・即売したいという民間の方々の計画が動き出しています。民間事業者による自主的な起業意欲の現れとして注目し、町として可能な範囲で支援・協力していきます。

中学校前道路整備  
中学校の給食センター側の出入り口は十分な広さがなく、生徒の通学が心配されていました。改善のため隣接する土地所有者と協議を進めたところ、用地協議が整い八〇九・五九の土地を取得する予定です。

チャクシ館遺跡

林道種荷上場線開設工事に伴い、緊急地域雇用特別基金事業を導入して発掘を進めていたチャクシ館遺跡は、八月三十一日に発掘調査を終えました。このあと十二月いっぱいまで整理作業が続く予定ですが、発掘の結果、住居跡十三、土こう五基、鉄の生産炉五基などが確認されたほか、平安時代の土器の破片多数が出土しています。



多くの出土品の整理作業

きみまちの里フェスティバル  
十月十四、十五日、勤労者体育センターを主会場に開催することに決定し、現在準備を進めています。今年も、多くの町民を中心としたボランティアの応募があり、感謝しています。特に地元二ツ井

高校にあつては、全校生徒と教職員が、ランナーまたはボランティアとして申し込みがありました。今年のマラソンの出場者数は八月末で締め切ったところ、昨年をやや上回る千七百八十人となっています。



えら大会に支えらマラソン大会ボランティアに支えられているマラソン大会

琴丘能代道路測量

東能代インターチェンジから二ツ井インターチェンジ予定地までのうち、二ツ井町に係る三・三六について、平成八年度に全線測量を終了していましたが、その後の設計見直しなどにより、十一月末までの予定で補足測量に入ると伺っています。今後の展開としては、用地調査などの地元説明会を開催していく予定と伺っていますので、町としても積極的に協力していきたいと思っています。

生活圏三十分形成道路事業

梅内地区で進んでいる県道小滝二ツ井線の生活圏三十分形成道路事業は、順調に工事の促進が図られています。七月には田ノ沢橋が開通、現在川端橋の架替工事が進

められ、本年度で大淵集落まで改良が進む予定です。今後は、大淵以北の工事延伸が課題ですので、地域関係者とともに県に対して要望していきます。

麻生下田平線の橋梁整備事業

県代行事業として平成七年度に着工した麻生下田平線の橋梁整備事業は順調に進み、年度末の進捗率はおよそ八〇%と見込まれています。今後は上部工の一部と左右の護岸、取り付け道路、旧橋解体などが主体になると伺っています。一日も早い完成を要請してきますが、国の大型補正予算による事業費の追加にも恵まれ、早ければ十三年度、遅くとも計画された十四年度中の完成が現実のものとなってきます。



順調に進められている橋梁工事(下田平)

二ツ井本町の雪捨て場所  
これまで二ツ井小学校付近の河川敷を利用してきましたが、建設省能代工務事務所から数年にわたって堤防の弱体につながるなどの理由から他の場所に変更するよう求められていました。ついにこれ

を受け入れざるを得ないと判断し、新たな適地の検討を行っています。したが、これまでの調査では大川口地内の旧家屋解体材処理場を有力な候補地として選定し、条件整備が可能かどうか検討を加えています。なお、仁鮎、切石、富根については既に堤防の強化工事が終わり、これまで通り使用可能とのことです。

地域対話集会

ゴミ収集、介護保険など生活に密接に関わって、行政上の大きな変化がありました。その事情や町の考えを報告し、理解を願うとともに、率直な感想や提言も伺いたい。また、先に控えている重要な針路について意見を伺い、町政推進の参考にしたいの思いから、六月三十日を皮切りに、九月七日まで町内二十七カ所で地域対話集会を開き、貴重な意見をいただきました。とくに側溝・排水路整備指定こみ袋導入と粗大こみの収集などに高い関心が示され、多くの地域で話題となりました。寄せられた意見を整理し、その意を体して今後の町政に生かしていきたいと思えます。

県立高校総合整備計画

第五次秋田県高等学校総合整備計画が七月に決定されました。二ツ井高校がどう取り扱われるか、

◎ 主な議案

- 【原案を可決】
- 町道路線の廃止～町営住宅建設用地として種字上山崎地内の町道を廃止
- 財産の取得～小型ロータリ除雪車を取得
- 町営住宅集会所設置条例の一部を改正～竹原集会所の建て替えにより、新たに下水道料金を徴収
- 町教育委員会委員の任命について～町教育委員会委員の任期満了により工藤健一さん(富根)・佐藤元也さん(切石)を新たに任命
- 町一般会計補正予算～12年度一般会計に42,782,000円を追加し、歳入歳出予算の総額を5,660,211,000円としました
- 主な歳出
 

・道路台帳補正事務委託	21,100,000円
・児童手当給付費	11,605,000円

◎ 陳情・請願のゆくえ

- 【採 択】
- N T T東日本能代支店営業窓口の閉鎖計画をとりやめ、存続を求めることについて
- 妊婦健診料金一部補助について
- 国立大学の独立行政法人化に反対することについて
- 教育予算の拡充・義務教育費国庫負担制度堅持および30人以下学級の推進について
- 育児・介護休業法を「仕事と家庭の両立支援法」への改正を求めることについて